【 保険薬局Ｂ： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

処方せん枚数	約 1300 枚
週平均営業日数	6 日
営業収入(平成16年度1年間)	約 2.9億円

職員	薬剤師	1～5 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	0 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 薬局の管理者が安全管理の責任者になっている。
- 外部の研修会に積極的に参加している。
- インシデントレポートの作成には 1999 年から取り組んでいる。
- 散在については、鑑査システムを用いて秤量を行い、かつ目視で異物混入をチェックしている。
- 薬歴はシステムを用いて管理している。
- 医療機関への疑義紹介だけではなく、医療機関から投与量の問い合わせ等を受けている。
- 事故防止のために、色つけなどをしての一包化を行っている。また、時間内以外にも休日夜間の時間外の電話受付等を行うために、携帯情報端末を導入している。
- 糖尿病の患者が多いため、低血糖時の糖尿病薬、インスリンの保管・混和方法については特に注意を払って指導している。
- レセコンを導入し、対象患者の抽出を行っている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	38	118	・	118
	安全管理に係る研修	40	125	206	331
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	–	–
	医薬品等の安全管理	34	111	–	111
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	–	–
	感染制御及び無菌製剤	・	・	12	12
その他	インシデント／アクシデントレポート	–	–	–	–
	職業感染防止対策	・	・	–	–
	賠償責任保険	・	・	10	10
合計		112	353	228	581
職員1人当たり費用		・	71	46	116
営業収入割合		・	0.1%	0.1%	0.2%

注）“・” 該当データがない・ありえない、 “–” ゼロ、 “0” 値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	–	–	20	20	・	・
物件費	–	–	18	18	8,952	350
合計	–	–	38	38	8,952	350
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.1%

【 保険薬局Ｃ： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

処方せん枚数	約 2,200 枚
週平均営業日数	6 日
営業収入(平成16年度1年間)	約 2.9億円

職員	薬剤師	1～5 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	0 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 管理薬剤師以外に安全管理推進者の薬剤師が任命されている。
- インシデント・アクシデントレポートは県薬剤師会で作成した書式を用いている。なお、作成結果は、県の薬剤師会インシデント事例報告モデル事業で報告している。
- 鑑査システムで秤取、分包偏差を行っている。水剤の瓶には内容を記載したラベルを用いて、調剤ミスを防ぐようにしている。
- 事故防止に向けた機能連携として医療機関への疑義照会については 1990 年頃から取り組んでおり、一包化、開局時間内における問い合わせ対応にも取り組んでいる。また 2002 年からは休日・夜間における電話転送を行い、患者からの問い合わせに対応している。
- リウマトレックス、ティーエスワン等の抗がん剤に関する服薬指導、インスリン注射の使用方法、使用量に関する指導を行うようにしている。
- 個人情報保護のためにシュレッダーを導入している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	92	308	・	308
	安全管理に係る研修	15	55	127	182
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	600	600
	医薬品等の安全管理	25	83	59	142
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	1	1
	感染制御及び無菌製剤	・	・	11	11
その他	インシデント／アクシデントレポート	3	11	－	11
	職業感染防止対策	・	・	12	12
	賠償責任保険	・	・	12	12
合計		135	457	822	1,279
職員1人当たり費用		・	51	91	142
営業収入割合		・	0.3%	0.5%	0.7%

注）“・”該当データがない・ありえない、 “－”ゼロ、 “0”値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	－	－	34	14	・	・
物件費	－	－	2	1	1,000	522
合計	－	－	36	15	1,000	522
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.3%

【 保険薬局D： 基本情報（平成16年6月の状況） 】

処方せん枚数	約 2,900 枚
週平均営業日数	6 日
営業収入（平成16年度1年間）	約 3.0 億円

職員	薬剤師	6～10 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	0 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 薬品名・量をチェックする鑑査システムを2005年に導入。
- 散剤、水剤についても鑑査システムを用いて合計量の確認等を行っている。特に散在については、分包偏差の確認のために一包目、中間、最終量の確認を行っている。
- 小児投与量について、医療機関に照会をしている。逆に医療機関から照会を受けることもある。
- 時間外（休日・夜間）についても電話で患者からの問い合わせに応対している。
- 薬歴の服薬カレンダーをもとに、コンプライアンスや処方間隔のチェックを行っている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	99	277	・	277
	安全管理に係る研修	32	80	12	92
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	−	−
	医薬品等の安全管理	110	360	5	365
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	−	−
	感染制御及び無菌製剤	・	・	−	−
その他	インシデント／アクシデントレポート	95	319	−	319
	職業感染防止対策	・	・	−	−
	賠償責任保険	・	・	4	4
合計		336	1,037	21	1,058
職員1人当たり費用		・	94	2	96
営業収入割合		・	0.3%	0.0%	0.4%

注）“・”該当データがない・ありえない、 “−”ゼロ、 “0”値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器（導入費用）	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	−	−	51	24	・	・
物件費	−	−	3	3	4,310	309
合計	−	−	54	27	4,310	309
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.1%

【 保険薬局 E： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

処方せん枚数	約 1,600 枚
週平均営業日数	6 日
営業収入(平成16年度1年間)	約 1.1 億円

職員	薬剤師	1～5 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	0 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 施設の管理者が安全管理の責任者となっている。
- 医療安全の内容も含めた外部研修に積極的に参加している。
- 2003 年からインシデント・アクシデントレポートの作成、分析に取り組んでいる。
- 処方箋・薬歴に基づき、品目・数量・薬袋のチェックを行っている。また、電子薬歴データベースに基づく相互作用チェック、異物混入の目視確認も行っている。
- 散・水剤については、秤量品の記録、ばらつき確認のために再秤量を行うこともある。
- 県薬剤師会が共同で開発したインターネット上の受発注システムを利用することにより、在庫管理等が迅速に行うことができる。
- 特定の薬剤等については、投薬カレンダーの貸し出しや電子薬歴による服薬状況の確認を行っている。
- 同一法人内で安全管理強化月間が年 2 回開催されている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	72	190	・	190
	安全管理に係る研修	27	93	220	313
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	－	－
	医薬品等の安全管理	126	427	10	437
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	－	－
	感染制御及び無菌製剤	・	・	4	4
その他	インシデント／アクシデントレポート	4	13	－	13
	職業感染防止対策	・	・	20	20
	賠償責任保険	・	・	5	5
合計		229	723	259	982
職員1人当たり費用		・	161	58	218
営業収入割合		・	0.7%	0.2%	0.9%

注）“・” 該当データがない・ありえない、 “－” ゼロ、 “0” 値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	－	－	41	5	・	・
物件費	－	－	21	5	5,170	315
合計	－	－	62	10	5,170	315
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	4.9%	0.3%

【 保険薬局F： 基本情報（平成16年6月の状況） 】

処方せん枚数	約 4,200 枚
週平均営業日数	6 日
営業収入（平成16年度1年間）	約 3.6 億円

職員	薬剤師	6～10 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	0 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 内部研修としては「業務過誤防止研修会」、外部研修としては「調剤過誤防止研修会（新人研修）」を実施している。
- 鑑査は、過去の薬歴との鑑査、処方内容の鑑査、調剤内容の鑑査を実施している。
- 散水剤調剤については、散剤計算メモの作成、散在鑑査システムからの秤量記録しとの突合、分包誤差、異物混入の確認を行っている。
- 在庫管理ソフト、JANコードを利用した発注システム、自動入庫システムを導入している。
- 麻薬の管理服薬指導を実施している。
- 在宅自己注射に関しては注射器使用方法指導、用法・用量の指導を行っている。
- 副作用防止のために、光回線インターネットによる情報収集、レセプトコンピューターによる該当患者の検索を行っている。
- クリーンベンチを整備している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	32	86	・	86
	安全管理に係る研修	54	141	270	411
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	－	－
	医薬品等の安全管理	248	833	53	886
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	－	－
	感染制御及び無菌製剤	・	・	1,959	1,959
その他	インシデント／アクシデントレポート	3	12	－	12
	職業感染防止対策	・	・	13	13
	賠償責任保険	・	・	20	20
合計		337	1,071	2,314	3,386
職員1人当たり費用		・	86	185	271
営業収入割合		・	0.3%	0.7%	1.0%

注）“・”該当データがない・ありえない、 “－”ゼロ、 “0”値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器（導入費用）	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	－	－	66	10	・	・
物件費	－	－	59	37	9,240	2,076
合計	－	－	125	47	9,240	2,076
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.6%

【 保険薬局Ｇ： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

処方せん枚数	約 1,900 枚
週平均営業日数	5 日
営業収入(平成16年度1年間)	約 2.8 億円

職員	薬剤師	1～5 人
	事務職員	6～10 人
	その他の職員	1～5 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 管理薬剤師が、安全管理責任者に位置づけられている。
- 発生しない日も含め、薬局内で起きたヒヤリ・ハット事例の報告を毎日行っている。
- インシデントレポートの作成は 2003 年から開始し、2004 年のヒヤリハットレポートは 20 件。
- マニュアルは薬局調剤内規の他、インシデントレポートマニュアル、薬品情報カード、PHRM-2E（個別調剤事故分析ツール）作成マニュアルを整理している。
- 散剤の鑑査には散在鑑査システムを導入している。
- 水剤の鑑査には水剤確認調剤スタンプ、混合総量と 1 日服用量確認を行っている。
- 抗がん剤、抗リウマチ薬は、休薬期間の管理を行っている。
- 副作用防止のために、インターネットによる情報収集、レセプトコンピューターによる該当患者の検索を行っている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	525	1,394	・	1,394
	安全管理に係る研修	26	83	142	225
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	–	–
	医薬品等の安全管理	82	270	16	286
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	–	–
	感染制御及び無菌製剤	・	・	31	31
その他	インシデント／アクシデントレポート	11	38	–	38
	職業感染防止対策	・	・	132	132
	賠償責任保険	・	・	14	14
合計		645	1,786	335	2,121
職員1人当たり費用		・	149	28	177
営業収入割合		・	0.6%	0.1%	0.8%

注）“・” 該当データがない・ありえない、 “–” ゼロ、 “0” 値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	–	–	77	23	・	・
物件費	–	–	14	4	650	811
合計	–	–	91	27	650	811
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.3%

【 保険薬局 H： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

処方せん枚数	約 1,600 枚
週平均営業日数	6 日
営業収入（平成16年度1年間）	約 0.8 億円

職員	薬剤師	1～5 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	0 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- インシデントレポートを作成しており、報告件数は 20 件であった。
- マニュアルは調剤事故防止マニュアル、薬局調剤内規の他、調剤事故発生時対応マニュアル、小児薬用量リストを作成している。
- 調剤事故防止のために、①液剤鑑査システム、②散剤鑑査システム、③電子薬歴システム、④電子自動分割分包機を導入している。
- 散剤・液剤は鑑査システムの記録と処方箋により薬剤と計量値の確認を行い、さらに目視により異物混入検査を行っている。
- 抗がん剤、ステロイド剤、向精神薬などの服用状況を電子薬歴簿で把握している。
- 副作用防止のため、インターネットで情報収集し、該当患者への連絡の確認を行っている。
- 感染性疾患患者のための隔離待合室を設置している
- 調剤室および待合室にクリーンシステムを導入している

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	72	211	・	211
	安全管理に係る研修	32	117	306	423
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	672	672
	医薬品等の安全管理	301	1,020	85	1,105
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	–	–
	感染制御及び無菌製剤	・	・	268	268
その他	インシデント／アクシデントレポート	20	68	–	68
	職業感染防止対策	・	・	12	12
	賠償責任保険	・	・	11	11
合計		425	1,416	1,354	2,770
職員1人当たり費用		・	354	338	693
営業収入割合		・	0.9%	0.8%	1.7%

注）“・” 該当データがない・ありえない、 “–” ゼロ、 “0” 値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器（導入費用）	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	–	–	102	–	・	・
物件費	–	–	90	–	226	3,204
合計	–	–	192	–	226	3,204
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	2.0%

【 保険薬局Ⅰ： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

処方せん枚数	約 5700 枚
週平均営業日数	7 日
営業収入(平成16年度1年間)	約 9.9億円

職員	薬剤師	11～15 人
	事務職員	1～5 人
	その他の職員	1～5 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 大病院に隣接する保険薬局。週 7 日営業。
- 同一法人の他店舗共通での内部研修も含めて、多くの研修の機会がある。
- インシデントレポートはデータベース登録されている。
- 医療機関側の要望に応じ、インシデントレポートの内容について報告することもあった。
- 医療安全に係るマニュアルは多種が用意されている。
- 同一法人で独自に開発した総合処方システム、散剤鑑査システム、計数調剤システム等を用いて調剤鑑査を行っている。クリーンベンチは 2 台導入している。
- ドラッグテレフォンを設け、患者からの内容照会に対応する体制を整えている。
- 疼痛治療に使用する麻薬やインスリン自己注射に関しては特に時間をかけて服薬指導を実施している。
- 受付で患者への投薬内容についてのチェックを行っている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	117	343	・	343
	安全管理に係る研修	165	451	6	457
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	－	－
	医薬品等の安全管理	71	242	450	692
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	－	－
	感染制御及び無菌製剤	・	・	558	558
その他	インシデント／アクシデントレポート	70	237	－	237
	職業感染防止対策	・	・	－	－
	賠償責任保険	・	・	4	4
合計		423	1,273	1,018	2,291
職員1人当たり費用		・	61	48	109
営業収入割合		・	0.1%	0.1%	0.2%

注）“・” 該当データがない・ありえない、 “－” ゼロ、 “0” 値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	－	－	37	－	・	・
物件費	－	－	165	－	10,800	800
合計	－	－	202	－	10,800	800
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.1%

【 保険薬局J： 基本情報（平成16年6月の状況） 】

処方せん枚数	約1100枚
週平均営業日数	5日
営業収入(平成16年度1年間)	約0.6億円

職員	薬剤師	1～5人
	事務職員	1～5人
	その他の職員	0人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- 薬品名・量を電子的に鑑査するシステムの導入により、ミスが減少した。
- 散在用に集塵機能付き調剤台を導入している。
- 近隣の小児科から小児投与量についての問い合わせが非常に多く（月800件程度）、医療機関への問い合わせの件数（月60件程度）を大きく上回っている。
- 向精神薬、入眠剤、リウマトレックス等について、電子薬歴の服薬カレンダーでコンプライアンス、処方間隔のチェックを行っている。
- 県薬剤師会が共同で開発したインターネット上の受発注システムを利用することにより、在庫管理等が迅速に行うことができる。
- 小児科が隣接しているため、隠圧の隔離待合室を設けている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	40	106	・	106
	安全管理に係る研修	40	125	208	333
設備	調剤業務に関する機器・設備等	・	・	－	－
	医薬品等の安全管理	19	64	28	92
	副作用防止に関する機器・設備等	・	・	－	－
	感染制御及び無菌製剤	・	・	3	3
その他	インシデント／アクシデントレポート	2	7	－	7
	職業感染防止対策	・	・	30	30
	賠償責任保険	・	・	7	7
合計		101	301	276	577
職員1人当たり費用		・	75	69	144
営業収入割合		・	0.5%	0.4%	0.9%

注）“・”該当データがない・ありえない、 “－”ゼロ、 “0”値が小さいがゼロではない。

（別掲） ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	－	－	1	－	・	・
その他	－	－	14	1	640	79
合計	－	－	15	1	640	79
営業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	0.1%

5. ヒアリング調査の結果

ヒアリング内容をまとめたものを以下に示す。

（1）大病院と共通していると思われる取り組みについて	
病院（300 床未満）	・ 月 1 回安全管理委員会の開催など組織的に対応 ・ 全日病等の情報をフィードバック ・ 病棟に薬剤師を配置している ・ 全看護職員に対する院内研修、新入看護職に対するオリエンテーション ・ 職員研修を年 2 回以上実施（看護部では別途研修も実施） ・ IT 化・バーコード管理の推進 ・ インシデント・アクシデントレポートの原因研明、再発防止策の検討 ・ マニュアル（病院全体・各診療科）の作成、更新 ・ 患者満足度調査の実施
一般診療所（有床）	・ 医療安全に関する病内の実施・院外研修への参加 ・ インシデントレポート（分析・対策検討） ・ 安全管理、感染制御、医薬品安全使用に関するマニュアルの整備
一般診療所（無床）	・ 安全教育、外部研修受講 ・ マニュアルの整備 ・ 感染症対策（機器洗浄）
歯科診療所	・ 研修会の開催、外部講習会への参加 ・ 滅菌の厳守と感染物の取扱いへの注意の徹底 ・ 患者対応（誘導等）の教育 ・ マニュアル作成（または、歯科医師会作成のマニュアルを使用）
保険薬局	・ 安全管理責任者の任命とそのルーチンワークの確立 ・ 研修会への参加 ・ IT 化によるヒューマンエラー対策 ・ IT システムによる薬歴管理 ・ 医薬品情報の入手方法の確立 ・ インシデントレポート作成・報告体制 ・ 調剤内視、特に注意を要する医薬品の識別や管理上の工夫 ・ 抗生物質や小児用薬剤の換算表や用量一覧表の作成

（2）取り組みの特徴について	
病院（300 床未満）	・ 組織横断的に活動できるマネージャを配置 ・ 規模が小さいので、問題発生後の対処を素早く行うことができる ・ 定期的な看護度調査による看護要員配置数の見直し ・ 患者家族との協力体制、事故防止参加依頼
一般診療所（有床）	・ 職員全員が何らかの担当者となっており、責任感をもち自主的に行動 ・ 安全意識の共有化、意識統一が図りやすい ・ 意思決定が速く、全職員への伝達も早くできる ・ コニュニケーションが密であり、誤りがあった場合に発見しやすい
一般診療所（無床）	・ 日々のコミュニケーションや打ち合わせで対応 ・ 受付スタッフの変動が少ないので意思疎通がスムーズ
歯科診療所	・ 全スタッフが参加する会議を頻繁に開催 ・ 診療を通じての感染対策教育・安全教育 ・ スタンダード・プリコーション（標準予防策）の徹底 ・ HIV、C 型肝炎などの感染防止対策を全スタッフにレクチャー ・ 院内感染防止対策として、洗浄水など他数ヶ所を年 4 回定点観測
保険薬局	・ 日常の薬剤師同士の会話から改善点を発見し、その場で解決可能 ・ 患者個人の情報などについて詳細な申し送りが可能 ・ 医療機関ごとに特徴的な薬剤は、施設ごとに分別管理 ・ 同一銘柄の複数規格を独自のルールで管理

（3）新しい取り組みについて	
病院（300 床未満）	・ RCA（根本原因分析）の実施 ・ FMEA（失敗モードと影響解析）の実施 ・ バーコード管理システムから得られるデータの有効活用 ・ オーダリングシステムが稼動 ・ 安全キャビネット（作業者の被爆防止） ・ 抗癌剤のクリーンパッケージ据え付けの無菌調製室 ・ 夜勤を 3 人から 4 人体制へ増員
一般診療所（有床）	・ オーダリングシステムなど IT 化を計画中 ・ 防犯カメラの設置（設備会社と契約） ・ 手すりの取り付け（廊下の手すり） ・ 空気清浄機の導入
一般診療所（無床）	・ 感染症患者を隔離するスペース確保を計画中 ・ 注射器・医療材料等の完全ディスポーザブル化
歯科診療所	・ 感染の恐れがある患者のカルテを色分けした ・ チェアー間を約 3m 離しているが、さらに仕切り（カーテン）を設置 ・ 口腔外バキュームの導入、滅菌パックの開始
保険薬局	・ 音声データ認識による端末への入力 ・ 画像データから情報を抽出して端末への入力 ・ 患者情報を携帯できる情報端末装置一式を導入 ・ 薬局内におけるインシデント事例の報告制度の確立 ・ 電子薬歴の導入などによる患者データの共有化

注１）RCA（Root Cause Analysis、根本原因分析）

事故事象を起点として、直接的な原因をたどることにより根本原因を特定する。分析結果は、事故の再発防止の立案等に役立てる。

注２）FMEA（Failure Mode and Effects Analysis、失敗モードと影響分析）

予想される失敗の状況や状態を列挙し、その発生頻度や影響度を評価する。分析結果は、効果的で効率的な事故防止対策の立案等に役立てる。

（4）取り組みにおける課題について	
病院（300 床未満）	・ 職員の安全管理に対する意識の向上 ・ FMEA や RCA の実施に時間がかかる ・ 兼務業務が多く負荷が大である ・ 直接ケアの時間をいかに増やしていくか
一般診療所（有床）	・ 残業や休日出勤で対応するなど職員へ負荷が大きい ・ 医療安全に関する情報収集手段が限られている ・ 他の医療機関と連携ができていない ・ 医師がカバーする範囲が広く、時間的に余裕がない
一般診療所（無床）	・ 患者対応の教育の必要性を感じている ・ 診療所におけるチェックリスト、トラブル事例集などの整備 ・ 安全に係る人的コストが増大
歯科診療所	・ コストと人的負担（滅菌消毒にかかる時間など）の増大 ・ レクチャーなどの際には、理解の個人差へ配慮する必要がある ・ 歯科助手は専門的な知識が乏しいため、教育に時間がかかる ・ HIV などへの感染を明かさない患者を想定する必要がある ・ スタッフの感染防止、洗浄・消毒の際のケガなどにも注意が必要 ・ 滅菌、非滅菌作業を整理の上、清潔区域を設定する必要がある ・ 治療中に出る切削片などについて、強力な吸引・集塵装置が必要
保険薬局	・ 疑義照会マニュアルを作成する ・ 2 次元コード（QR コード）の規格標準化 ・ 医療安全の向上を目的した機器の導入・運用コストが経営を圧迫 ・ 情報量の増大におけるその整理ならびに活用

（5）費用負担が大きい取り組みについて	
病院（300 床未満）	・ 会議等に出席するための時間外の人件費 ・ 研修際の機会費用と人件費・交通費 ・ IT 化、医療機器のメンテナンス費用
一般診療所（有床）	・ 建物の保全、転落防止・バリアフリー化等の施設改善 ・ IT 化、医療機器の保守 ・ 防犯上、夜間の監視カメラ増設
一般診療所（無床）	・ 廃棄物処理などのコスト
歯科診療所	・ 感染対策のための滅菌消毒や前準備にかかる人的負担 ・ 消耗品の種数、数量の増加（ディスポーザル製品の増加） ・ 粉塵バキューム、殺菌浄水器などの導入 ・ グローブ、マスク、エタノールなど感染防止対策のための消耗品 ・ 廃棄物処理 ・ 警備会社との契約
保険薬局	・ 薬剤師の資質向上のための学会、研修派遣費用 ・ 鑑査体制の充実などのための人員の確保 ・ IT 化推進コスト ・ 散剤監査装置 ・ クリーンベンチの導入 ・ 備蓄薬の増加に伴う調剤室のスペース ・ 携帯情報端末使用に伴う個人情報保護に関する保険料が高額

（6）取り組み内容や取り巻く環境の変化と傾向について	
病院（300 床未満）	・ 個人情報保護法での対応の難しさ（患者による意識の差は大きい） ・ 書面での承諾が多くなり、仕事量（説明、書面作成の時間）が増加 ・ 家族の方への説明は、信頼関係を構築する上で重要 ・ 説明義務を果たすことが一層重要になってきている ・ 患者の医療に関する知識が増えてきている
一般診療所（有床）	・ 患者の医療に関する知識、権利意識が高まっている ・ リスクについて質問する人が若年層を中心に増えている ・ 家族で介護する人が減ってきている ・ 高齢の方が増えてきているので、転倒・転落防止が重要 ・ 車イスも高級（高機能）なものが要求される ・ 病診連携で情報の共有化が進んでいる
一般診療所（無床）	・ 患者との信頼関係を築くことが、以前よりも難しくなってきた
歯科診療所	・ 患者が安全、特に感染対策に関してチェックするようになってきている ・ 患者の口からセカンドオピニオンという言葉が出てくるようになった ・ 患者の医療知識が向上してきており、質問も増えてきている ・ 高齢化により合併症が多い患者が増加するため、スタッフ教育が必要 ・ 感染性疾患の患者が増加するため、スタッフ教育が必要
保険薬局	・ 安価にシステム構築ができるようになった ・ 後発品採用の増加に伴う備蓄薬の増大